〔編集後記〕

AI や多様化という言葉を毎日のように耳にし，我々が身を置く医学においても重要な問題である．8 年ぶりの改訂となる日本医学会医学雑誌編集ガイドラインが2022年に出版され，ICMJE(医学雑誌編集者国際委員会) Recommendations へ準拠し AI やジェンダーそして査読のあり方など多くの記載が追加された．

AI についてはオーサーシップという観点から述べている．ICMJE によるオーサーシップは，1. 文の構想，デザイン，データの収集，分析と解釈において相応の貢献をした．2. 論文作成または重要な知的内容に関わる批判的校閲に関与した．3. 発表原稿の最終承認をした．4. 論文のいかなる部分においても，正確性あるいは公正性に関する疑問が適切に調査され，解決されることを保証する点において，論文の全側面について責任があることに同意した．という 4 つの基準を記載している．著者として記載されるには，4 つの基準の全てを満たさなければならず，そして，4 つの基準を満たしている者は全て著者として記載されなければならない．AI ツールは論文の正確性，完全性，独創性に対して責任を負うことができないため，上記のICMJEの著者基準を満たしていない．また，文章や AI が生成した画像などの盗作についても作者（人間）に責任があり，原稿の執筆，論文の画像やグラフィック要素の作成，または収集と分析における AI 支援ツールまたはテクノロジの使用を，投稿時におよび「Methods」（または同様のセクション）で開示する必要がある．査読を担当する側の負担軽減には Cross check のように，AI を見破る AI check 機能の導入が望まれる．私が編集長を担当している脳神経外科の学術誌では 1 年前に査読者として AI と統計担当の専門家が就任した．当時 AI は deep learning のようなデータ解析方法に用いられておりデータサイエンスに対応するためであった．論文構成に使用可能な ChatGPT が 2022 年 11 月に公開され，医学分野はその光と影を理解しながら早急に対応していく必要があると考える．

本号では 2 編の原著論文（筆頭著者山口智佳先生と濱田耕介先生）と 1 編の最終講義抄録（令和 4 年退官；長峯　隆先生）を掲載している．長峯先生は小生が大学院で研究を始めた 1993 年の指導医で，その後 30 年間もお世話になっている．抄録の内容は研究から教育にまで及び，論理的でわかりやすく，札幌医学雑誌の将来を考えるうえでもたいへん有用である．

（編集委員　三國　信啓）